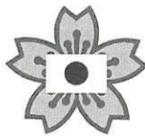


謹賀新年



# 國の支え

(故中井信夫元大阪府議会議長)

関西防衛を支える会  
(略称・関防会)

〒542-0081  
大阪市中央区南船場3-11-10  
心斎橋太陽ビル7階  
TEL 06-6241-1124  
発行人 高橋季義  
編集人 新川貞敏  
印刷所 (株)新聞印刷

第21号

(新年号)

平成17年1月1日(土)

(皇紀2665年)

(大正紀元94年)

(昭和紀元80年)

# 専守防衛の欺瞞を抉る

## 出席者

西村眞悟 (衆議院議員  
小会特別顧問)

高橋季義 (小会会長  
西村眞悟統括後援会々長)

濱野晃吉 (小会副会長  
新しい歴史教科書をつくる会々長)

司会…新川貞敏(編集人)



左から濱野、高橋、西村の各氏

司会：本年は終戦六十年の節目の年であり、昭和紀元八十年となります。過日、会長との会話の中で尖閣諸島に岩を築き自衛隊を常駐させるべきではないかと、私は提案しました。それは竹島が韓国に占領されている現状を考へ、その足を踏まない為でもありません。

また、西村議員が雑誌『諸君』十一月号に寄稿された「砂の論理を否定せよ」は、もって銘すべき真理であります。幸か不幸か、議員が提案された論理を以て対応せざるを得ない事態が発生しました。それは中国の原子力潜水艦が十一月十日、我が国の領海を侵犯した事件です。

また、十一月三十日のラオスに於けるアセアンの日中首脳会談で温家宝は、小泉首相に南米チリのAPECで胡錦濤との会談以上に強欲な要求を厚くましくも述べました。曰く、靖国神社参拝中止要求、ODAは戦時賠償であり中国から断つても良い、などなどです。これらを踏まえて、年頭の所感を会長、お願いします。

高橋：会員の皆さん、新年おめでとうございます。本年

も手を携えて確固とした国家主権の確立を目指して頑張らましよう。

今年も終戦六十一年、日露戦争で難攻不落だった旅順の要塞が正月早々陥落して百年を数えます。また五月二十七日は日本海で戦いでバルチック艦隊を撃滅して止めを刺したのです。この世界史上たぐいまれな先祖の実績を支えたとした日本再建のスタートの年としたいのです。

先般、海軍兵学校(七五期)の同窓会が江田島で催されたが、みな高齢となり、これが最後の全国総会となりました。最高議長官をして三好(三好達氏・日本会議会長)も同期で出席していましたが、クラス会ともなれば長官といえども皆、俺・貴様の仲ですが、国家再建が出席者全員の願いでした。

司会：西村先生、いかがですか。

西村：本年も皆様何卒宜しくお願い申し上げます。旅順陥落は丁度百年前(明治三十八年)の一月一日であり、会長の話しのように日露戦争百年の節目に、日本がもう一度、自信と誇りを取り戻し、真の国家再建に各人が邁進する年にしたいと

## 新春座談会

# 国防の生命線は二百カイリにあり

濱野：会員の皆様、明けましておめでとうございます。さて、我が国は国家の浮沈をかけて戦った事が三度あります。ひとつは、元寇の役、次は日露戦争、そして大東亜戦争です。三度の戦いとも日本は貧しかったが国民が皆しっかりと国家感、危機感を持っていました。

現在は、その国家感、危機感が欠けています。それは戦後六十一年の大変な問題であって是非とも立て直さねばならないと考えます。

司会：中国の原潜の領海侵犯事件など考えるとき、国家主権確立のモデルケースとして尖閣列島要塞化について会長どうですか。

高橋：要塞化する前に尖閣は日本の領土である事を内外に明確にする事が先決であり、その上で我々は国土の最先端を護ると言う思想を国民に植えつけねばならない。そして国防のラインをどこに置くのか考へると、やはり尖閣が日本の防衛ラインとなる。

これらの中で国民の自覚を促し、かつ、外国から同意を

得られるような外交政策を打ち出して貰わねばならない。

### 空母機動部隊を持つ

司会：西村先生は尖閣に上陸された経験がありますが、この点はどうですか。

西村：会長の見解に同感です。海洋国家日本は動かない島を要塞化するより、先ず、動く要塞、つまり空母機動部隊を数セット持つと言つ発想に転換すべきです。

また、中国の原子力潜水艦に対しては、スウェーデンがバルト海でソ連の潜水艦に爆雷を投下して駆逐したように、断固とした対応が必要だと思います。これが国際常識なんです。司会：西村先生が「諸君」に発表された「砂の論理」は国内を戦場とする前提の専守防衛論理は、国民にとって一番不幸な国防である、と説いてありますが、説明して下さい。

西村：砂の論理は「砂上の楼閣」と同じで、憲法九条と言つ「砂」を土台にした防衛論議であり、砂のよう

に簡単に流れたり、潰れたりするものです。つまり専守防衛は国内を戦場とする前提に立つもので、攻撃されてから反撃する等の論理はむきむきと数万人の同胞の犠牲、つまり大死が出る事を前提としていて、それを容認する反国家的、反国民的思想である。これが砂の論理の要旨です。

司会：昨年の小紙秋月号で防大七期の将軍・提督の人達と座談会を持ちましたが、元海上幕僚長の山本さんもパランスの良い攻防を備える為には打撃力、つまり空母が必要になるだろうと言っていました。また、猛将の佐藤守元将も爆撃機などの攻撃力を持つ必要があると力説していました。

しかし、財務省が現状を無視した兵力削減を要求しています。空母を持つ事に財務省や一部国民の抵抗を考へた場合、対地攻撃力を持たせた潜水艦を増やす事のほう

が容易ではないかと考へます。元潜水艦隊司令官の平賀さんも対地攻撃のトマホークを潜水艦に搭載すれば強力な脅威を与え、かつ防御力の増強になるだろう、と言っていました。

西村：国民のサポートは圧倒的にある。だから国民の信

高橋：実現を期さなければならぬ。実現のためには小泉総理の取巻きをどうするかだが、今度の外務大臣の町村さんは多少期待できるのではないかと考へます。

西村：田中真紀子、川口順子と言つ外務大臣は悪すぎた。司会：新聞によると町村大臣を中国政府は歓迎の意向だぞつだが、外交辞令としても反発されるくらいの方が丁度よいのでは…。

西村：江沢民が去って、胡錦濤の天下になり、何か変化すると期待する向きもあるが、あの国は何も変わらない、と言つ前提で我が国は政策を進めることだ。中国人と言つのは損になれば止め、得になればやる、そういう民族だと認識しなければならぬ。それが如実に表れたのが先の南米とラオスの日中首脳会談だ。

司会：支那人は日清戦争の頃から反日感情を持っており、何も昨日、今日の問題ではないですね。

高橋：今日、それがエスカレートしているね。

西村：魏志倭人伝、卑弥呼と言つ表現に見られるように、二千年前から毎日感情はあったのです。

2・3面に続く

## 講演予告

演題	軍事戦略に占める潜水艦部隊
講師	たのうち ひろし 田内 浩氏・前潜水艦隊司令官(防衛大 防学12期)
期日	平成17年5月14日(土)午後4時40分開演
会場	新東洋ホテル(大淀の間)

\* 中国の原潜が我が国の領海を侵犯したが、世界の潜水艦の現状と我が国の潜水艦の実力は？等、軍事機密に差支つかえない範囲で語って貰います。

1面から  
.....  
西村：中川一郎と民主党とは繋がりが強いのです。春日一幸氏(民主党元委員長)は中川一郎氏の選挙に応援に行っていました。昔は皆、カラッと明かされた。司会：西村先生は平沼氏(赴夫氏・前産経大臣)と仲が良いと聞きますが。

高橋：中川一郎という人は豪傑で人情味があったな。しかし事務的な事は全部秘書(鈴木宗男氏)が握っていたよ。西村：平沼さんは拉致議連の会長であり、私は幹事長としてお仕えして親しく付き合いしています。昨年、小泉総理が北朝鮮から五人の子供を連れて帰った時、家族会や拉致議連の行動にマスコミと政府筋などから非難轟々の声が出たが、平沼氏は主張を萎えなかった。そして今では家族会や我々の言う事が主流になったが、あの

### 奇貨おくべし、ブッシュ再選

高橋：その通り、まず歴史教科書を改めなければならぬ。西村：先般、石原都知事が「ミサイルが三発くらい落ちてくれれば」と言ったことがあるが、これは民主主義国家の政治家なら当然に考えることである。つまりアメリカのルーズベルト大統領がモンロー主義と言った自閉症か。

### 新党旗揚げで救国の平沼内閣は実現するのか？

西村：昭和四十六年の青風会の旗揚げに大阪自民党青年部の誘いで日本武道館に行ったが、あの時は日本の政治も変わる時期でしたね。石原慎太郎、浜田幸一、故人では中川一郎、渡辺美智雄などの人達でしたから。昭和三十五年の民社党結成以来の快挙と喜んだのですが。西村：あの青風会の血判は中川昭一氏(産経大臣)の父親の一郎氏が中心となり作られたもので、中川氏は親父に似て酒豪で秀才で人情味豊で、大いに期待できる人ですよ。昼間から酒を飲むことがあるという、一種の豪傑ですよ。

高橋：中川一郎という人は豪傑で人情味があったな。しかし事務的な事は全部秘書(鈴木宗男氏)が握っていたよ。西村：平沼さんは拉致議連の会長であり、私は幹事長としてお仕えして親しく付き合いしています。昨年、小泉総理が北朝鮮から五人の子供を連れて帰った時、家族会や拉致議連の行動にマスコミと政府筋などから非難轟々の声が出たが、平沼氏は主張を萎えなかった。そして今では家族会や我々の言う事が主流になったが、あの



西村衆議院議員

このように国内世論を打破するために日本が真珠湾を攻撃するよに仕掛けて戦争に引込んだように、我が国も国家再建の為に、ミサイルを打ち込まれるようなショック療法が必要ではないか、と言っている。そうすれば、教育がどうの等の議論をせずとも一挙に国家再生の土壌が出来るのです。司会：ルーズベルトと言え、共和党のブッシュ大統領が再選されました。高橋：良かったよ、クリントンの時は対日強硬政策で、特に経済的には各種の訴訟を提起され日本企業は莫大な金を払わされたから。ブッシュが再選されて、特にライス(新国務長官)は中国をアジア安定への潜在的脅威とみているから。対ロ・対朝鮮外交でもアメリカの軍勢力を、日米安保条約の発動を担保出来る政権でなければ我が国の強硬策は全く相手にされないから。残念ながら平和憲法の制約下では精強な善の我が自衛隊も相手に取られて単独では何も出来ないのは、承知のとおり。ブッシュ政権の四年の間に憲法を改正し国防省に昇格させて陸海空を国軍として整備して自主独立体制を整えるべきでしょう。

### 油断するな、憲法改悪

高橋：これは油断できないね、改正の内容が。与党である公明党の論点に、とん.....  
西村：民主党は岡田氏だろう。与党は小泉総理だが、次回は小泉氏では無いだろう。高橋：その時に平沼を担ぐ。西村：それは民主は真つ二つに分かれ、自民党には四十日抗争をやってもらわなければならぬ。司会：今の自民党にそんな抗争する馬力がありますか？  
西村：新党を作つて小沢さんのように共産党でも頭数に加え、創価学会にも頭を下げるなど何回も繰り返すのか？。春日、中川、二階堂氏などがやった擁立劇の方がはるかに実現性がありますよ。司会：平沼氏は担ぐに血筋は良いが、血統だけで旨いんですか？  
西村：度胸もある。高橋：亀井派から抜かれるかな？、亀井本人がまだ色気を出しているから。司会：平沼氏は昭和十四年つまで六六才だが、遅いのはありませんか？  
注：平沼氏は検事総長・内務大臣・法務大臣など歴任した平沼騏一郎元総理の孫である。「欧州の天地は複雑

司会：いま会長が統括ブッシュ大統領の四年間を我が国は利用するべきだとありましたが西村先生どうですか。西村：まったく、その通りです。今回言われている米軍再編に関しては、この再編問題を我が国が自主独立の防衛体制を確立する絶好の機会にするべきではないかと考える。現在の日本の安全保障体制は、米軍が攻撃的役割を果たし、自衛隊が防衛面および兵站を担うという体系になっている。攻守のうちの守の部分しか持っていないという防衛体制は明らかに歪んでおり、この機会にこれを正常な形に持つて行くことが肝要であると思う。しかし、この好機に小泉内閣は防衛予算を減額しようとしている。これは政治的使命感の欠落としか思えないですね。司会：最近の報道によれば憲法改正が早まりそうですか？

高橋：これは油断できないね、改正の内容が。与党である公明党の論点に、とん.....  
西村：民主党は岡田氏だろう。与党は小泉総理だが、次回は小泉氏では無いだろう。高橋：その時に平沼を担ぐ。西村：それは民主は真つ二つに分かれ、自民党には四十日抗争をやってもらわなければならぬ。司会：今の自民党にそんな抗争する馬力がありますか？  
西村：新党を作つて小沢さんのように共産党でも頭数に加え、創価学会にも頭を下げるなど何回も繰り返すのか？。春日、中川、二階堂氏などがやった擁立劇の方がはるかに実現性がありますよ。司会：平沼氏は担ぐに血筋は良いが、血統だけで旨いんですか？  
西村：度胸もある。高橋：亀井派から抜かれるかな？、亀井本人がまだ色気を出しているから。司会：平沼氏は昭和十四年つまで六六才だが、遅いのはありませんか？  
注：平沼氏は検事総長・内務大臣・法務大臣など歴任した平沼騏一郎元総理の孫である。「欧州の天地は複雑

### 中国の女スパイと同衾した亡国の元総理

高橋：橋本は四十才になるかならんかの時に厚生大臣になったが、あれは田中角栄が親父の橋本龍吾に恩義を感じて大臣にした。その途端にケンカ太郎(武見太郎)日本医師会会長に子供扱いにされ、意のままに動かされたんだ。当時、医師は儲けたと喜んだもんだ。司会：橋本氏は今回の日歯連の献金事件で潰れたが、国家の為に良かったんではないか。西村先生が国会で追及された支那の女スパイを抱いた事件ほど国民は惨めな思いをした事はないですね。高橋：そうだ、尖閣列島に中国人が上陸した時に海上保安庁に手を出すな、と言ったのも橋本総理だった。西村：橋本個人もさながら対中恐怖症の時代だったんですよ。高橋：まんまと支那の作戦に乗せられてしまったな。今回の原潜の件でも、海洋資源問題でも支那人の狡智にやられたな。西村：橋本氏は二六才で議員になって、毎日のように銀座や六本木で飲んでたという。そして、自分はモテるんだと思込んでいた。それが三十年も続くと自己破壊

### 元老政治を復活させよ

西村：明治時代には、元老が人材登用の人事をやっていたから大胆な人事ができたが、今は元老がいらないから。高橋：本当に元老がいらない。天皇を取り巻く中にもロクな人物がいらない。中曾根さんが自ら元老ぶっているが彼は所詮、風見鶏だ。靖国神社の問題でも中国に屈して参拜を中止したんだ(昭和六十年)。あんな中途半端な男はダメだ。司会：中曾根内閣の時、自民党は三百議席を取りました。あの時、憲法改正のチャンスだったのですが。高橋：官房長官の後藤田(正晴氏・大正三年生)さんがおかしかったな。ペルシヤ湾に掃海艇派遣を反対して潰したのも後藤田さんだ。西村：彼は内務官僚だから、国民に自由を与えたらメチャクチャになると考えていたのではないかな。高等文官試験に受かった優秀な自分達が差配をすると言つて護民官意識が強いな、防衛庁の内局みたいな考えだ。先程、元老の話をしたが、民主主義には元老が必要だ。チャールズが言うように民主主義とは最悪の政治制度だと思つているが、もし民意が間違っていたらどうするか？。そのような場合、間違つた民意に引きずられない為に元老の権威、威厳をもって元老システムが動く、この政治的装置が我が国には必要だろう。高橋：佐藤栄作、吉田茂、岸信介などの年代の総理は国家経営に誠心誠意を持ったリーダーであった。それは漢学者の安岡正篤や高僧・名僧に国家経営について常に教えをこめていた。そういう事は現在も必要である。

### 制服OBを大使に起用せよ

西村：うーん、政界にはいないな。高橋：政界以外はどうですか。高橋会長のような人が良いと思いますが。司会：我々もそうならば、この運動をしているので。高橋：参議院は脱政界を固るべきではないか、今は衆議院のコピーになっている。参議院に元老的作用をもたすべきではないかと思つています。高橋：貴族院の時代はそれなりの伝統を持っていたが、.....  
3面に続く

# 新春座談会



2面から

それがいつの間にか政党化してしまっただ。参議院はそれぞれの業界の代表が集まる良識の府としての存在であるならば公明正大で元老の役割を果たせるだろうし民主主義の弊害を修正できる。

西村：ローマ帝国には経験と能力を持ったセネターと言った元老院があった。セネターとは参議院と訳します。したがって、海外で見る参議院は物凄く権威のある議院だが日本ではレッテルが先行して名前だけで形骸化している。

高橋：アメリカの上院の方が優れてその役割を果たしている。しかも上院には軍人出身が多い。日本も自衛隊の制服OBに参議院の議席を与えて国家的見地で政治に参加の道を拓くべきではないかと考える。有能な人材が早々と定年退職するのは勿体ない事だ、各国の大使に起用しても良いではないか、これは政府の決断だけで出来る。

西村：同感です。私が尖閣に行った時の南西航空団司令官の佐藤守氏(空将)も度胸の座った人物だった。彼の職務執行の姿勢には愛国の殺気が漂っていた。

司会：彼は御巣鷹山に日航機が墜落したとき、空幕の広報室長だったが、対応が遅いと朝日新聞の田岡記者にやられた。夜間の捜索で二次災害の発生を考え、夜明けまで待った事に対してだが、七期の同期が団結して佐藤一佐(当時)を援護したものです。

田岡が許せんのは、現職の空軍大佐にたいして「御前みたいな者は首にしてやる」と暴言を吐いた事。また、一新聞記者の発言にオオオオした空幕の将官がおつた事が残念ですね。

## 多機能で弾力的な防衛力の構築を

高橋：アメリカの基地を尖閣諸島のどこかに移転させるという話しなげないのか不思議だ。きつと「中国を

刺激するから」と言う返事しかないだろうと思うが、しかしそれならば「あそこを基地を持ちたい」とアメリカに言わせる戦略を立てるべきだ。

司会：たしか、尖閣の近くの下地島に滑走路があるはずだ。

西村：そうです。ジャンボ旅客機が離着陸できる滑走路があり、民間航空のパイロットの訓練に使われているので軍用には可能な筈です。

司会：その下地島に基地を造り日本軍を駐屯させてはどうですか。

## ドラム缶を叩くように潜航する中国の原潜、そのお粗末な海軍

司会：二十年ほど前、洞庭湖で空母航行の実験を始めた報道があったが、海上自衛隊の友人にきくと「良い鉄は釘にならない、つまり、優秀な人間は兵隊にはならない」と言う格言を持つ中国人に空母の運用なんか出来る訳がない、と一笑に付していました。

高橋：十四、五年前に中国海軍を見た事があるが、その時「これなら、帝国海軍は当分、安泰だ」と感じた。軍艦と称する物に乗せて貰ったが、手入れが何もされておらず、便所の汚く、臭い事といったらひどかった。これは中国海軍は大した事はないな、と思つたものだ。

西村：海上自衛隊の艦艇は、速度の違う何隻もの艦をドンピシャリで旗艦の前に揃えるが、あの技術は日本人しか出来ない。だから空母機動部隊も造ることになったらすぐに出来る。十年以内で実戦配備できるのではないかと。造ると言っても、タンカーの上を平にしたら簡単です。

司会：我が国は非常な潜在能力がありますな。

濱野：それは充分にある、凄いやつ持っている。司会：中国は空母を持って砲艦外交の魂胆ですね。

西村：インドネシアの海軍参謀総長に会った時、彼が「日本海軍は何故、こちらに

来てくれないのだ。我々は中国の奴等にいじめられて困っている。中国人は日本海軍の姿を見ただけで逃げたんだ」と言っていた。また「横須賀に我が海軍の軍人を行かせて

いたが、この頃は人数を制限されて不満だ。目の前を通る船は皆、日本の物資を運んでいる船ばかりだ。だから日本海軍に来て欲しいのだ」と言

っていた。

我々は支那と朝鮮の方に視線が行っているので気づきに

ついている時だから国も予算を組んでやってみたらよいな。

西村：一つの国防政策として、浮体工法の滑走路を作れば世界のどこでも進出できるし日本列島を浮体工法の空母で取り囲む事も選択肢として考えるべきだ。

高橋：それを提案する者はいないのか、あれ程、沖縄の基地問題が出ている時になぜ尖閣に移動する案がでないのか。

西村：国策としての明確な決断がなければ浮体工法は出



高橋会長

くいが、南方のアジアは日本に期待するもの大なるものがある。パラオ共和国に練習艦隊の基地を設け、インドネシア、スマトラ、ジャバに毎年寄港して親善外交を展開すれば親の共に栄える地域、つまり大東亜共栄圏となり得る。

司会：遠交近攻の戦略的外交を考えると、南アジアの大国・インドともっと親密になる努力をするべきではないですか。

高橋：その通りだ。インド研究者の岡本幸治氏(近畿福祉大学教授)も著書で述べている。

濱野：今、インドへのODAは中国を抜いてナンバーワンですね。インドの車は中国より質が良く、日本からも良質の鉄を求めています。良い車を作り、ヨーロッパに輸出する考えです。

西村：中国の鉄はアカンのですか？

濱野：駄目ですね。

高橋：中国も日本の鉄を輸入しているからね、新日鉄とか住金など日本の鉄は良質だからな。

西村：中国は五十万人規模の軍縮をしようが、それが日本に密入する危険がありますよ。

高橋：中国の反日教育がいつまで続くか知らないが、内政の不満を外交に転嫁しなければ国の統一が保てないのだらうな。情けない国だ。

西村：日露戦争直前のように、朝鮮半島はやはり大陸に吸収されて行くのだらう。二十世紀日本の努力は水泡に帰した。

来ないでしよう。これが成功すれば世界各国から注文がくると思つ。

司会：台風などに耐えられますか？

西村：大丈夫です。逆に波の力で発電も出来るでしょう。

高橋：波力発電だな。

司会：空母の艦長を養成するには十年はかかると思えますか。

西村：浮体空母は本物の空母に着艦するより楽ではない



濱野副会長

高橋：そう言う所は歴史に学ばなければならぬし、我々は当時と同じような危機に向かっていると認識すべきだ。

昨年、小泉総理と中国首脳との二度に亘る会談でも対日恫喝・高圧的態度は変わらず、我々は今、手を打って置かなければ朝鮮半島の撤を踏むことになるのだらう。

西村：朝鮮半島に振り回されるはまっぴり御免だ。最近、新宿でも難波でも朝鮮の売女が溢れているが、この女どもが五十年もすれば、また保証を求めてくるんじゃないか。

濱野：雑誌「正論」に現在の流れでは、韓国は南ベトナム化するんじゃないか、との記事がありました。

西村：日本にはクダラナイと言言葉があるが、これは千四百年前に朝鮮半島の「百濟」(くだら)から逃げて来た連中によるもの。いずれにしても、国家の危機に立上らない、くだらな者はアメリカにでも行ったらよい。

## 海洋国家の生きる道

司会：統一朝鮮が大陸に吸収されると我が国としては、日露戦争を戦ったような決意をもたなければならぬのではないですか。

西村：そのとおりです。朝鮮半島が大陸に吸収されるのを防ぐために、日清戦争、日露戦争をやったのだ。あの時の国防戦略は海洋国家の国防戦略として今も普遍的にドンピシャリと合致している。

大陸勢力の基地を釜山に、また朝鮮半島にミサイル基

かな。日本はかつてアメリカと闘った経験があり、やれば出来るはずだ。硫黄島の滑走路は短い、今も着艦する要領で着陸していますよ。

高橋：そのような訓練はやっているし、その機能・能力は十分にあると思つた。

西村：中国が空母を造り始めているようだが、あれは金喰虫だからとどろどろ造らせたらい。運用に失敗してオーストラリアのように港に飾って置くだけで、張り子の虎のようになるのだらうと思つ。

高橋：まず、対中ODAを止めなければならぬ。

地を作らせない事が肝要である。イスラエルが未だにミサイル攻撃を受けないのは、周辺の敵対国の基地が出来たら潰してきたからであり、イラクの原子力を空爆でつぶしたのも危機の芽を未然に防がためである。日本も断固として見習うべきだ。

高橋：財務省が防衛費の削減を諮っているがとんでも無い事だ。いまや仮想敵国とも言うべき中国の恫喝外交に屈しない為にも、航空自衛隊は航続距離のある戦闘機、爆撃機を持たねばならない。これは西村議員に是非頑張って貰いたい。

西村：最初に述べた砂の論理とは、我が国の国防は砂上の楼閣であり、これを点検し排除しながら我が国の本来の国防原則に真正面から向き合わなければならないと言

う事です。まず破棄すべきは「専守防衛」という防衛思想である。これこそ実に残酷で無慈悲で冷酷な思想です。これは敵から攻撃を受けてから防衛行動に入ると言う思想で、一定数の国民が殺されたのを確認してから防衛すると言う事で、我が国全体で「沖繩戦」を展開する

というものである。これは防衛では無く悲壮な最後の「本土決戦」であることくらい子供でも分かるものだ。防衛では無く断末魔の阿鼻叫喚の修羅場である。

この阿鼻叫喚の地獄を回避する為には我が国の防衛ラインを国境線の外、二百カイリの海上の向こうに設定する。そうして、陸上自衛隊を「海を渡って戦う陸軍」つまり遠征用の海兵軍に改変すると共に、航空自衛隊は海の向こうの敵基地を破壊できる「戦略爆撃空軍」にしなければならぬ。海軍には数セットの空母機動部隊が必要となる。要するに、国民に逃げ場のない海洋国家は、断じて国内を戦場にしてはならない。そうして敵ミサイルは発射前に破壊できなければならない。

専守防衛を唱えるものは残虐な危険思想の持ち主であり、現在の自衛隊は、まさに「専守防衛」用である。したがって現自衛隊の再編なき存続こそ、政治的犯罪的な行為であり、国力と国費の許しがたい浪費と考えるもの

です。

このような視点に立ち、今年も頑張りますので宜しく御支援お願い申し上げます。

### 同期の桜を歌う会

場所:大阪護国神社  
日時:平成17年4月2日(土)  
13:30~16:30

◎皆様奮ってご参加下さい!

実行委員長

**黒田 泰弘(敦)**

〒547-0022 大阪市平野区瓜破東  
2-3-13-403  
電話・FAX (06)6707-3638  
携帯電話 090-3944-0828

### JMC

代表取締役社長  
**濱野 晃吉**

株式会社 経営センター  
TEL (06)6245-7490  
FAX (06)6245-7489  
E-mail: jmc@mug.biglobe.ne.jp  
〒542-0081  
大阪市中央区南船場3-11-10  
心齋橋太陽ビル

関西戦中派  
主幹 **津村 忠臣**

〒540-0012 大阪市中央区谷町2-1-3  
TEL(06)6941-1353  
TEL(06)6941-1357

(社)日本郷友連盟  
大阪府支部(大阪郷友会)  
会長 **芝田 武治**

〒665-0885 宝塚市山本台1-1-17  
TEL(0797)881-3650

会員一同

高橋 季義

〒531-8550 大阪市北区本庄東2丁目3番41号  
TEL(06)6375-1610

関西防衛を支える会 会長  
株式会社 **きんでん** 特別顧問

## あけましておめでとうございます

### 今年もよろしくお祈いします



平成16年12月11日の関防会理事会兼忘年会で(於:徐園)  
衆議院議員 大前繁雄氏(前列左から3人目)

相談役 **中島 元**

〒573-0105 枚方市長尾東1-13-24  
TEL(072)858-1293

関西防衛を支える会

梶川 勝平

〒599-8126 堺市大美野八六番地六  
TEL(072)371-6093

関西防衛を支える会  
総務部長 **山根 穰**

〒663-8223 西宮市今津巽町五-13-1  
TEL(0798)211-6130  
FAX(0798)211-6130

山下 弘文

〒583-0858 羽曳野市南古市三丁目一番十二号  
TEL(072)957-3878  
FAX(072)957-5982  
TEL(093)717-8750

自衛官募集相談員  
海上自衛隊予備自衛官

大和心のつどひ

吉村 伊平

〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺六丁目十三番十九号  
TEL(06)6628-0661  
FAX(06)6628-0661

大和心のつどひ  
赤田 友則

〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町一三四-14  
TEL(06)6621-5029  
FAX(06)6621-4639

保口 廣幸

総合警備保障株式会社 大阪中央支社  
〒540-5301 大阪市中央区城見1-13-17  
TEL(06)6949-1270  
FAX(06)6949-1277

陸上自衛隊 第36普通科連隊  
予備自衛官36会 相談役

### T.I 商会

代表 **稲並 隆寿**

〒581-0868 大阪府八尾市西山本町七-17-1  
TEL 0729-24-5723  
FAX 0729-92-9577

### Intellectual Salon 陵雲

谷川 千浪  
浮世絵師 谷川 陵雲

〒530-0003 大阪市北区堂島1-2-15  
浜村サンプラザビル3F  
TEL 06-6341-6033

### 死んでたまるか!!

田幸教授(琉球大)開発の特許商品!!  
沖縄モズクと北海道産真昆布ガニアシの  
純粋フコイタンをダブルで配合!!  
ガン・糖尿病など成人病が気になる方に...



【フコイタンZ】150粒(25~50日分)25,000円  
お徳用350粒入り50,000円もあります。

Beauty Health Laboratory  
**ビー・エイチ・ラボ**  
〒553-0006 大阪市福島区吉野4-21-26  
TEL(06)6462-5820 FAX(06)6462-5824  
携帯・PC共通 <http://bh-labo.net>

### 自衛隊広報紙

#### 広告掲載企業募集

中部方面隊広報紙 やましろ  
第10師団広報紙 金鏡  
第3師団広報紙 錦城  
第13旅団広報紙 みつや

### 株式会社 若鳩

本社  
〒570-0032 大阪府守口市菊水通2-19-1菊水第二ビル  
TEL(06)6993-0099  
支社  
〒530-0028 大阪市北区万歳町4-12浪速ビル西館401-B号  
TEL(06)6362-0888  
FAX(06)6362-3591

合成樹脂着色剤  
離型剤・洗浄剤・その他  
阪奈化成商事  
代表者 **平川 芳春**

〒547-0012 大阪市平野区長吉六反2丁目2-71  
TEL(06)6709-1791(代)  
FAX(06)6709-1727

宗教教育研究会  
代表 **西尾 良彦**

〒530-0047 大阪市北区西天満五丁目十五番九号  
アバンセ西天満ビル五〇一七号  
TEL(06)6311-0277  
FAX(06)6311-0277

代表取締役 **増山 佳延**

〒544-0011 大阪市生野区田島5丁目15番2号  
TEL(06)6757-1808-1  
FAX(06)6752-1891-7

「お茶の」  
株式会社 芳香堂

# 新防衛大綱…これでいいのか

新防衛大綱に基づき、予算削減という至上命令のもと財務省から兵力大幅削減の原案が提示されたとき、筆者の脳裏に浮かんだのがこの歌である。今は殆ど知る人も無いかと思われる、この歌の作者は、二六事件で知られる「熱血歌人将軍」齋藤瀧少将である。歌人齋藤史さんの父君である。

我が陸海空三自衛隊の兵力削減案は、今この小文を綴っている十二月五日現在で戦車の三五%、戦闘機の十七%、護衛艦の十三%削減がほぼ決定、陸上兵力を現行の十六万を十二万に削減するという財務原案を巡って攻防が続いているようである。

戦車隊の削減はよい。北海道平野の戦車大会戦など、もともとあり得ない話であった。半世紀も昔、故土居明夫中将が分析していたように、大陸から我が本土への大規模な機械化兵団の上陸など、仮想敵の揚陸能力から推定し

世界有数の長大な海岸線を持つ我が国の沿岸防備には、やはり或る程度の兵力が必要なのである。超近代装備の少数兵力には有効でも、民衆を楯とする武装兵力に対しては先ず手不足が弱点となるのは、ナポレオンのスペイン侵攻以来不変の史実である。国土防衛の他に災害復旧支援という任務もある。これは帝国陸軍以来の伝統的任務であって、関東大震災における赤羽の工兵第一大隊や、昭和二年丹後峰山地震における京都工兵第十六大隊の活躍を、そしてその時、我が工兵さんが建設した四畳半の「仮設住宅」を記憶される古きもあろう。

しかも最近はその上に国際貢献という名のもと海外派遣という新任務が付け加えられた。(かつての海外派兵は在外同胞の保護のみであった。)

加重する一方の任務。十二万の兵力で、本土の守りは果たして万全なのか。

財務省主計官の権威は絶大であるという。かつて福田元総理が陸軍担当の大蔵省主計官であった時代、支那派遣軍司令部出張した時、実に丁寧な待遇を受けたよつたと山本七平氏は書いている。今次削減案が、主計官の権威で強行される可能性は強い。

# 軍あはれなり

遅れざる備へをだにも許さず  
勝つ強ひらるる軍あはれなり 瀧

画家 奥村 直

でも非常に困難な作戦だったのである。

しかし兵員の削減は、また別の問題である。電子装備・少数精鋭の近代型歩兵は、正規の作戦では圧倒的に強力である。その意味でラムズフェルドの戦略はイラク戦が正規軍同士の戦闘である間は有効であったろう。しかし、一度得たの知れぬ「ゲリラ」との戦闘に移行してからは、それは通用しなくなると見てよい。如何に優秀な暗視装置といえども、良民と「ゲリラ」の区別は不可能なのであり、これに対抗するにはやはり「頭数」なのである。現在のイラクに於ける米軍の兵力、死傷者数を見ればそれは明白であろう。

今後我が自衛隊は南西諸島の防衛を重視して、島嶼作戦の機動部隊を配備する計画であるという。おおいに結構なことである。しかし筆者は北方日本海沿岸に点在する小島嶼が不安でならない。無法国家北朝鮮のゲリラ策源地から、これらの島嶼は佐渡あたりと等距離である。しかもそこにはそれぞれ日本国民が居住し、彼等を護るのはせいぜい一人の「駐在さん」だけなのである。もしここに北朝鮮のゲリラ部隊が上陸して島民を人質としたらどうなるか。我が国は、彼等の無法な要求に屈せざるを得ないのでないか。

欧州各国の地上軍の現況について、我が陸自と比較すると興味深いものが多々ある。中でもドイツの例は面白いが、比較論を展開する紙数が無い。恐らく財務原案も欧州諸国、特に島国英国の現状を勘案したであろう。確かに英国の地上軍は少ない。しかし立地条件が違っているのである。機会があればこの辺り論じてみたいものではある。

保元の乱のみぎり、源為朝の主張した先制攻撃が藤原頼長の反対で却下され、建武中興の時、楠木正成の献策した首都からの戦略的撤退案は宰相清忠に阻まれた。いずれの例も長袖流石を語る弊害の典型として、戦前は小学生でも知っていた史実である。

山梨軍縮、宇垣軍縮、ロンドン会議等過去の軍縮についてさまざまな教訓は存在する。それらは今の我が国史学会では、何れも軍部の横暴、欺瞞、等々マイナス評価のみである。まして長袖流石を語る弊害などといえば、シビリアンコントロールを何と心得る、と強い反発を受けるであろう。でも筆者は敢えて言う。我が財務省主計官のエリートよ、願わくば兵を語る長袖流石ではないことを天下に示して頂きたい、と。

## 関防会役員名簿

(50音順)

### ●特別顧問

大前 繁雄 小池百合子 高市 早苗  
西村 真悟 依田 智治

### ●相談役

沖田 裕 神戸 道雄 小林 公平  
小林庄一郎 佐伯 洋 芝田 武治  
鈴木 満男 中島 元

### ●会長

高橋 季義

### ●副会長

黒田 泰弘 阪本 太郎 津村 忠臣  
濱野 晃吉

### ●監事

梶川 勝平 (兼常任理事)  
吉村 伊平 (兼常任理事)

### ●事務局長

前田 稔 (兼常任理事)  
事務局次長 釈迦郡文雄 (兼常任理事)

### ●総務部長

山根 穰 (兼常任理事)  
総務副部長 渡辺 勝身 (兼常任理事)

### ●財務部長

長田 雅恵 (兼常任理事)  
財務副部長 増山 佳延 (兼常任理事)

### ●事業部長

保口 廣幸 (兼常任理事)  
事業副部長 山下 弘文 (兼常任理事)

### ●広報部長

新川 貞敏 (兼常任理事)  
広報副部長 赤田 友則 (兼常任理事)

### ●渉外部長

森 實 (兼常任理事)  
渉外副部長 稲並 隆寿 (兼常任理事)

### ●常任理事

赤坂 昇三 石田 吉末 石丸 昌司

## 中井信夫会長代行を偲ぶ

### 中井氏略歴

大正15年3月・府立堺中学校卒業(現・三国ヶ丘高校)  
昭和4年3月・大阪薬学専門学校卒業(現・大阪大学薬学部)  
昭和17年10月・堺市議会議員当選  
昭和22年5月・大阪府議会議員に当選、以降連続六期就任  
昭和39年6月・大阪府議会議長就任  
昭和40年1月・大阪万国博覧会誘致のため府知事などと渡欧  
昭和40年8月・全国都道府県議会議長会会長  
昭和43年6月・信太山自衛隊協会会長、以降30年間  
昭和46年6月・三丘同窓会会長(三国ヶ丘高校)  
昭和53年5月・大手会会長(大阪府議会議員OB会)以降二五年間  
昭和54年4月・勲四等旭日小綬章受賞

## 小会の運営に多大な尽力

小会会長代行・中井信夫氏が十二月十三日永眠された。明治四一年五月、堺市生れの九七才であった。機関紙の題字「國の支え」を揮毫して貰ったのは五年前の事である。

青少年期はサッカー選手として活躍、戦中はトランペット奏者として出征兵士を送る。

なかでも陸上自衛隊信太山駐屯地の応援団長として三十年はキャリアの中でも最長である。謹んでご冥福をお祈り致します。



平成15年4月信太山駐屯地にて

## 輸送艦「おおすみ」

一般公開のお知らせ

日時：2005年1月12日(水)

13:00~16:00

場所：阪神基地隊(東岸壁)

■お申込みは、下記へ  
海上自衛隊阪神基地隊  
総務科広報

TEL 078-441-1001(内線216)  
FAX 078-431-0447

古城 勲男 児玉 敦 小味淵敦雄  
高見 哲郎 田中 正剛 筒井 信雄  
平井 章夫 古垣美智子 三宅 博

### ●理事

飯田美智子 小西 正之 海原 芳郎  
葛西 順子 小味淵育子 澤頭 利男  
櫻井 照男 軸原 博文 谷川 千浪  
西島久美子 西尾 良彦 濱野やよい  
平川 芳春 古川 敏昭 藤田タケ子  
松田 清 柳本 顕子 吉村 英龍  
相談役以下 58名  
特別顧問を含む総員 63名



## イラク復興業務支援隊 派遣要員候補者激励会

去る、12月13日、新阪急ホテルに於いて下記団体によるイラク派遣要員82名の激励会が催された。200名弱の参加応援団が黄色のリボンを着用して無事の帰還を願った。



激励会に駆けつけた会員と渡邊総監

中部方面隊 国際貢献活動後援会	代 表	小林 公平
発起人		
大阪防衛協会	会 長	小林 公平
関西防衛を支える会	会 長	高橋 季義
迅速会	会 長	大谷 龍則
丹櫻会	会 長	村上 良一
清交社芝蘭会	会 長	松山 勝
中方防衛懇話会	会 長	大岡 次郎
自衛隊を理解する会	会 長	阪口 正浩
防大同窓会	会 長	中 一皓

## 中部方面隊の精鋭82名を支援

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、ご家族ともども輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、皆様方から格別のご支援・ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。川龍一郎でございます。



自衛隊大阪地方連絡部長 荒川 龍一郎  
陸将補

### 積極的に職務を遂行

防衛庁・自衛隊は、昨年五十周年を迎え、この五十年間、我が国の防衛ばかりでなく、災害派遣等国民の生命・ク等において国際社会の安定に積極的に貢献し、広く内外から高い評価を得られるようになりまし。一方我が国をめぐる安全保障環境について、今年五十周年という節目等において国際社会の防衛はもとより、国際貢献や災害派遣等、国民の自衛隊に対する期待は益々大きくなっています。今年五十周年という節目等において国際社会の防衛はもとより、国際貢献や災害派遣等、国民の自衛隊に対する期待は益々大きくなっています。今年五十周年という節目等において国際社会の防衛はもとより、国際貢献や災害派遣等、国民の自衛隊に対する期待は益々大きくなっています。

## イラク派遣自衛隊へ 平成17年1月義捐金のお願

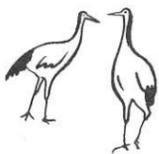
関西防衛を支える会 会長 高橋季義

趣旨 昨年一月、北海道の北部方面総監部管轄の陸上自衛隊がイラクへ人道復興支援のために派遣されました。以来、順次、勤務を交替し、今年度第五次派遣部隊は伊丹市に所在する中部方面より派遣されます。中部方面隊は近畿二府四

復興のため懸命な汗を流し守備範囲の部隊で、地元国民から高い評価を得ています。しかしながら派遣された自衛隊には活動のための潤沢な資金があるのではありません。特に、交際費などの概念は自衛隊創設以来、無きに等しいのが現状です。

復興のため懸命な汗を流し守備範囲の部隊で、地元国民から高い評価を得ています。しかしながら派遣された自衛隊には活動のための潤沢な資金があるのではありません。特に、交際費などの概念は自衛隊創設以来、無きに等しいのが現状です。

### 編集後記



\*この機関紙も二号の発行を数える事となった。俗に謂う三号紙で終わるのではないかと、危惧の声もあったが、皆様方のご協力のおかげで六年目を迎えた。厚く感謝を申し上げます。

毎号、編集に際して思ふのは、貴重な御喜捨(会費)を使つての発行に際しては、新事務長官のライスが「アジア・太平洋地域の再軍備にあたり吉田茂の総理は駐英武官だった辰

(新)